

会 議 録

1 会議名

令和7年度第3回柿崎区地域協議会

2 議題(公開・非公開の別)

(1) 自主的な審議(公開)

・柿崎区地域協議会 各委員会の取組状況について

(2) 報告事項(公開)

・農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」について

(3) その他(公開)

3 開催日時

令和7年6月17日(火) 午後6時30分から午後7時17分まで

4 開催場所

柿崎コミュニティプラザ 3階 305～307 会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者(傍聴人を除く) 氏名(敬称略)

- ・委員：吉井会長、中村副会長、金子委員、小出委員、小関委員
小山(慶)委員、坂木委員、佐藤(達)委員、佐藤(昌)委員
佐藤(ま)委員、蓑輪委員、山川委員
- ・事務局：柿崎区総合事務所 新部所長、松崎次長、片岡次長、
荻谷産業グループ長、横尾建設グループ長、
石川市民生活・福祉グループ長、岩片教育・文化グループ長
長井地域振興班長、熊木副主幹

8 発言の内容(要旨)

【松崎次長】

- ・地域協議会の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会議の運営は会長が行う旨を説明。

【吉井会長】

- ・会長挨拶。
- ・会議録署名委員に金子委員を指名。
- ・次第4の自主的な審議に入る。(1)柿崎区地域協議会各委員会の取組状況について各委員長から報告をお願いする。最初にスポ×まちプロジェクトについて佐藤（昌）委員長をお願いする。

【佐藤（昌）委員】

（資料1により説明）

【吉井会長】

- ・ただ今、佐藤委員長から説明があった。委員から質問等ないか。
（質問なし）
- ・私から質問させていただく。「地元の方々の協力がほしい。」というのは、その下に「広報の手段が限られている。」とあるが、広報に関する協力のことであるか。

【佐藤（昌）委員】

- ・大会の運営などに地元の協力が欲しいということである。また、活動に関しての協力も地元の方からいただきたいということである。まず、大会の開催自体の広報が上手くいっていないので、なかなか大会自体が知られていないという話があった。

【吉井会長】

- ・まずは地元の方々の協力と言ってもたくさんあると思うが、今こういう大会をやっているという広報が一つ、できればその大会運営に関わる人的なバックアップがあればさらにうれしいということで良いか。

【佐藤（昌）委員】

- ・はい。

【吉井会長】

・それから市の助成金制度が難しいということだが、各スポーツ団体への市の助成金はあるのか。

【佐藤（昌）委員】

- ・直接的な市のバックアップではなく、いろいろな補助金があったら良いとホームページなどで探しているが、自分たちに該当するかどうかホームページを見ただけでは直感的にわからないという意見であった。

【吉井会長】

- ・そうすると委員会としても各スポーツ団体がいろいろなイベント、大会、活動において市、県、国から助成金がどのようなものがあるかというのを調べる必要がある。今後の活動の一助として願います。

- ・ほかに質問ないか。

（質問なし）

- ・それでは、次に移る。ネットワーク柿崎の報告をお願いします。

【佐藤（達）委員】

（資料2により説明）

【吉井会長】

- ・質問はないか。

（質問なし）

- ・先ほどスポ×まちでも広報についての話があった。このネットワークでスポーツ関係の広報もできれば良いのではないかと思う。米山薬師についてもこのネットワーク次第だと思う。

- ・意見等ないか。

（意見なし）

- ・なければ、先に進む。報告事項の農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」について荻谷グループ長から説明をお願いします。

【荻谷グループ長】

（資料3により説明）

【吉井会長】

- ・農業基盤強化に関する地域計画について委員から質問等ないか。佐藤（昌）委員いかがか。

【佐藤（昌）委員】

- ・私も地域計画の地域懇談を土地改良区として携わった。非常にタイトな期間の中でかなり苦勞されて無事にここまで来た。2 ページにもあるとおり、こういうふうに計画ができた訳だが、実際に農業者の母数は少なくなっていて、それに伴い維持管理にかなり苦勞されている人が出ている。今後、圃場整備などが出てくる時もこの地域計画が基になるが、やはりまちづくりという関係で地域の皆さんが住みやすい環境を整えるには、地域協議会や柿崎区の皆さんにも関心を持っていただけるように取り組んで行こうかと思っている。

【吉井会長】

- ・私から1点質問がある。「年に1回、各地区の中心的な担い手を集め、協議の場（地域懇談会）を開催し、」とあるが、この協議の場（地域懇談会）に参加するメンバーはどういうふうに決めて、何人くらいでやるのか。

【荻谷グループ長】

- ・まだ、誰を集めるとか、いつ開催するというのは、全庁的に調整しきれていない。柿崎区だけではないと思うが、認定農業者協議会の役員に声を掛けながら開催時期及び集める人について協議し、今年開催したいと考えている。

【吉井会長】

- ・令和7年度は、開催に関して日時、メンバーがまだ決まっていなくて、これからということか。

【荻谷グループ長】

- ・今、現在では決まっていないが、認定農業者協議会と相談しながら時期と集める人を最終的に決定していきたいと考えている。

【吉井会長】

- ・認定農業者の人が懇談会に参加するということか。

【荻谷グループ長】

- ・そのとおりである。

【吉井会長】

- ・今年度から地域懇談会がスタートするということなので、年に1回しかやらな

いので、当然公の会議になると思うので、公の会議の後の結果をぜひここで教えていただきたい。

【荻谷グループ長】

- ・承知した。

【吉井会長】

- ・ほかに質問等ないか。

(質問等なし)

- ・それでは、地域計画については終了する。その他に移る。会議の開催日程の前に先週の研修会について参加した委員からコメントをいただきたい。山川委員から順番にいかがか。

【山川委員】

- ・私は、「地域の団体」のグループに参加した。その中で、前回の地域協議会の後に地域政策課から説明があったが、説明は聞いたが自分では全然わかっていなかった。というのは、住民団体という言葉があって、その時に誰かが住民団体とは何かという質問をしたと思うが、柿崎区で言えば柿崎まちづくり振興会のような団体が住民団体ということになるという話で、その時はそうなのかと思ったが、頸城区でも地域政策課から説明があって、その時に細かい質問をしたようで、上越市の考え方としては、柿崎区で言えば、柿崎まちづくり振興会が事務局体制をしっかりとて、小さな団体が活動していけるように人的資源や資金の支援、アイデアの支援の3本立てで上越市として支援をして行く話があって、それが計画どおりうまくいけば、先ほどのスポ×まちプロジェクトの小さな団体やその事務局にもなり得るのかと思い、今後プロジェクトがどのようなになっていくかを地域協議会でも見て行かなければいけないと思っている。

【蓑輪委員】

- ・主に2点ある。地域協議会の構成について、従来どおりの公募型が半数で、地域の団体推薦もあり、いろいろな意見が出た。私は個人的には、公募型と今回行政が提案した地域の団体が半々というのに賛成である。公募型は理想的な形で、地域協議会としての使命を考えると、地域住民の代表ということで、地域住民の意見、要望等を吸い上げることができる、地域から推薦された人が一番良いのだという非常に力強い発言もあった。私自身も自分の考えに凝り固まっ

ている訳ではないが、この点に関してはもっと議論が必要だと感じた。

- ・もう1点は地域の団体について、地域協議会はさまざまな地域課題を検討して良いプランを立て、これからやって行こうという時に、誰がやるのか、どこがやるのかと、地域協議会は活動の主体になれないということははっきりしているので、そこでいつも行き詰まる。それとお金がない。特に誰がやるのかというのがいつも課題になる中で、今回提案の地域の団体というところで、どういうものなのかという山川委員が言われたように、例えばまちづくり振興会とかにお金があればお金を付ける。人がいなければ、人を手当でするという実動部隊に協力に後押しをするという案は非常に良いと思う。最後に地域ビジョンが結局ポイントになるが、頸城区は地域ビジョンをうまく活用している。従来地域活動支援事業をうまく結びつけて地域ビジョンに似た形でこれまでやってきて成功しているという話を聞いた。今後の財政支援の仕組みは、決定した訳ではないが地域ビジョンをどうするのがポイントになると感じた。

【佐藤（ま）委員】

- ・地域協議会に何ができて、何ができないのか、立ち位置はどうなのかもわからないまま参加した。柿崎区は中学校区が1つであるためか、やる気があるように感じた。

【佐藤（昌）委員】

- ・私は、「地域自治の活動を活性化するための財源支援の仕組み」を頸城区の3人の委員と一緒に協議した。ベテランということで、知識が豊富で教わることが多かった。財源の支援としてもいろいろな考えがあるという話があり、協議会自体の立ち位置も合併前の上越市と13区で違うという話があった。その中で、先ほど蓑輪委員からも話があったが、既に頸城区で地域ビジョンを作っていて、それを基にして自主的審議事項のテーマにして行こうということであった。素晴らしいことなので、私たちもできるかと話した時に、すべてを頸城区がそのビジョンに沿って行けば良いが、例えばほかの組織が別のビジョンを持っていると、結局それは地域協議会委員のビジョンであると言われると入らなくなる。財政支援とは別にそういう形で土台を揃えていないとなかなか一体的に行動できないのかと興味を持った。また、財政支援の仕組みについては地域独自の予算の補助率が70パーセントということで、やはり3割負担というのはとて

も厳しいということと、始めたばかりの組織ほどお金がないので、これから育てて行くものもこの負担率ではなかなか育たないのではないかということは各区で共通していた。

【佐藤（達）委員】

- ・2点ある。「総合事務所及びまちづくりセンター」というテーマを選んだ。ここには、ほかの区の委員がいなくて柿崎区の委員だけで協議した。理想的な姿と方策案として集落づくり推進員の配置拡充と地域とのかかわりの強化、公民館主事との連携強化の3つが挙げられていた。この中で集落づくり推進員が実際どこまでの役割を担うのかというところがポイントかと感じた。もう一つは公民館主事との連携強化ということで、そこから情報の共有を各総合事務所であったり、まちづくりセンターが連携して情報を得るという話だったが、柿崎区の中でほかに連携情報共有できる公的な組織がないのかという話が出た。
- ・もう1点、全体の討議の中で、どの区か忘れたが、地域協議会の委員の業務とは、どんな業務なのかということと、もう一度勉強会をしないかと提案した委員がいて、私としても、ぜひそういった勉強をしたいと思った。

【中村副会長】

- ・私は、「地域の団体」のグループに入った。先ほど山川委員が言ったとおりの話であった。「地域の団体」とはどこまでを指すのだろうかということから話を始めた。まちづくり振興会や観光協会、町内会長連絡協議会があるが、どこもその運営、維持に悩んでいるという話があった。ある委員から、市はまちづくり振興会をもっとしっかりしたものにして、まちづくり振興会が地域の核となってほかの団体の支援ができるようにすることを考えているという話があった。結局私たちのグループでは、結論的なものは出せなかった。市のプロジェクトの方向性を見て行きながら、機会があれば意見を述べて行こうかと思っている。

【小関委員】

- ・委員の選出方法の公募と団体推薦について、団体推薦というのは、どこから出ているのかを聞いたかったが、その話が出てこなかったのは残念であった。

【金子委員】

- ・私は、柿崎区の3人だけのグループであり、ほかの区の委員がどういう考えを持っているのかを聞いたかった。

【吉井会長】

・柿崎区地域協議会から参加した 9 人から話を聞かせてもらった。私の班では、いろいろな議論をあちこちでしているが、どういう議論が出たのかを公にしてほしいという話が出た。ほかに任期の件とかあるが、いろいろな人のいろいろな考えがあるので、どういう方向に行くかは、これから我々が見守っていかなければいけないと思っている。このプロジェクトは令和 7 年度に骨子を作って令和 8 年度にもう 1 回揉んで、令和 9 年度に決まって条例ができる。令和 10 年度から新たな地域協議会がスタートするということになっているので、令和 7 年度にほとんどが決まる。我々の任期が終わった後で、どういうふうになるのか、このプロジェクトがどうなるかにかかっている。

・全体を通して意見はないか。

【小出委員】

(7 月 1 日開催予定の子育て中の親との懇談会についての案内)

【吉井会長】

- ・委員の中で懇談会に参加したい人がいたら参加していただきたい。
- ・それでは、その他に移る。事務局にスケジュールの説明をお願いする。

【長井班長】

- ・次の会議の開催日程を説明する。

(1)第 9 回ネットワーク柿崎

(2)令和 7 年度第 4 回柿崎区地域協議会

(当日配布物について説明)

【吉井会長】

- ・それでは、地域協議会をこれで閉会とする。

【中村副会長】

- ・地域協議会の閉会を宣言。

(午後 7 時 17 分閉会)

9 問合せ先

柿崎区総合事務所総務・地域振興グループ

TEL : 025-536-6701 (直通)

E-mail : kakizaki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。